

平成 20 年度の第 3 期科学技術基本計画における
「分野別推進戦略」の中間フォローアップのとりまとめ方針について（エネルギー分野）

環境・エネルギー G
平成 20 年 8 月 19 日

第 6 回分野別推進戦略総合 P T（平成 20 年 6 月 5 日開催）、基本政策推進専門調査会（平成 20 年 6 月 17 日開催）において、『平成 20 年度の第 3 期科学技術基本計画における「分野別推進戦略」の中間フォローアップのとりまとめ方針について（案）』が審議され、了解された。そのため、エネルギー分野では、以下のように対応することとする。

I. 戦略重点科学技術に係る目標、重要な研究開発課題に係る研究開発目標及び成果目標の進捗状況の把握・整理等

1. 戦略重点科学技術（14 科学技術）に係る目標、重要な研究開発課題（39 課題）に係る研究開発目標及び成果目標の進捗状況の把握・整理（エネルギー G）

- （1）進捗状況の詳細な把握
- （2）戦略策定時からの重要な変化等を踏まえた関連施策等の見直し

（対応方法）

平成 20 年度末頃にとりまとめ様式等が確定する予定のため、確定後に作業を開始。なお、エネルギー分野ではこれまでの毎年のフォローアップと同等の作業（重要な研究開発課題毎に進捗状況の確認と各省庁からのヒアリング）を実施予定。フォーマットの中で足りない項目があれば、適宜対応予定。ヒアリングの中で見直しの必要があると判断された場合は、適宜対応。

2. 個別政策目標（63 目標）、中政策目標等の進捗状況のとりまとめ（基本 G）

Ⅱ. 現状における課題や問題点の洗い出し、それらに対する対応方針等の整理

(エネルギーG)

エネルギー分野においては、気候変動に関する政府間パネル（IPCC）で承認された第4次評価報告書もあり、「美しい星・クールアース50」など本年7月の北海道洞爺湖サミットでもとりあげられた環境・気候変動問題などの地球温暖化対策が喫緊の課題である。さらに資源問題に目を向けると、原油価格がアジア諸国の需要増加や投機マネーの流入などを背景に高騰しており、資源・エネルギーに関する課題が山積し、科学技術の果たす役割は大きいと思われる。

(対応方法)

平成20年度内にとりまとめ（平成20年12月頃までに中間とりまとめ）を行うことを考えると、早急に議論を開始する必要がある。

分野別推進戦略策定後、「低炭素社会づくり行動計画」や「環境エネルギー技術革新計画」、「Cool Earth エネルギー革新技術計画」等、第3期科学技術基本計画策定後、関係各所において、さまざまな戦略や技術ロードマップ等が策定されている。エネルギーPTでは、上記の計画（技術ロードマップ等）と現在進行中の研究開発や普及促進策を検討し、実際の政策が矛盾無く行われているか、足りないところ加速すべき領域はないか等ヒアリングを行い、課題や問題点を洗い出した上で、対応方針等を整理する。

[議論にあたっての参考資料]

- ・分野別推進戦略（平成18年3月28日：総合科学技術会議）
 - ・Cool Earth エネルギー革新技術計画（平成20年3月5日：経済産業省）
 - ・長期エネルギー需給見通し（平成20年3月19日：経済産業省）
 - ・環境エネルギー技術革新計画（平成20年5月19日：総合科学技術会議）
 - ・脱温暖化2050プロジェクト（平成20年5月22日：国立環境研究所）
 - ・低炭素社会づくり行動計画（平成20年7月29日：閣議決定）
 - ・科学技術分野の課題に関する第一線級の研究者の意識定点調査（平成20年5月：科学技術政策研究所）
- 等

[スケジュール]

平成20年8月19日	各省や関係機関等からヒアリング、自由討議
平成20年11月	各省や関係機関等からヒアリング、自由討議
平成20年12月	中間とりまとめ（案）の提示